

公民館“報”

10月27日～11月9日「読書週間」

～最後の頁を閉じた 違う私があった～



「読書週間」

“燈火親しむべし”さわやかな季節、秋の夜長は明の下で読書をするにふさわしく「読書の秋」として定着しています。

もともとは、中国唐の時代の詩人、韓愈（かんゆ）の詩の一節「燈火稍（やや）親しむ可（べ）く」に由来すると言われていています。日本で広く使われるようになったのは、夏目漱石が小説「三四郎」（明治41年、朝日新聞に連載。岩波文庫・P-79）の中に、その漢詩を引用したことの影響が大きいという説が有力のようです。

「読書」のすすめ！

「読書週間」は、読書の楽しさを伝え、すべての世代の人たちが本に親しむきっかけになることを主眼にしています。

S校長の読書のすすめ=読解力3つの力（抄）

1. 読み取る力

書かれていることについて「何が書かれているのか（解釈）を正しく読みとっていくことが必要。」

2. 考える力

「なぜ作者はこんなことを書いたのか」など、文書から読み取り、自分なりに考えること。

3. 表現する力

読み取り考えたうえで、自分の意見や感想を表現する。論理的に表現する力が必要。

明野の「青空図書館」！

11月3日、「文化の日」に明野地区では、大分県の他の市町村には例がない「青空図書館」（無料古本市）を大々的に実施しています。

去年は、コロナ禍のため中止になりましたが、今年は、クリーンアップ歩こう会のメイン・イベントとして実施されます。

自治会の協力で多種類の本が沢山集まりました。早い者勝ちで、好みの本を選んで、何冊でもお持ち帰りできます。10/12・集まった本の仕分け作業



読書？



大野川！



ドーム！



海岸？

「何百年と読み継がれてきた古典には、人類の英知が凝縮されているので繰り返し読んでも新しい発見がある」（「跡なき工夫」細川護熙）